

カミエンスキー教授を訪ねて

須 川 力*

私は1968年9月末ワルソー市内に在ってその名も床しいコペルニクス通りに面した教授のマンションを訪問する機会に恵まれた。水路部の進士さんからの御手紙を大切に懐かしがっておられ、滞日当時の犬塚水路部長の感謝状を見せて、私の肩を抱き、手を取り、懐しくてたまらないといった表情を示された。ワルソー工科大学の若い助手のかたが私を案内してきているので、その人には日本語が分からないから、「郷に入っては、郷に従いましょう」と笑いながら日本の諺をさりげなく会話におり混ぜて、そのあとは流暢な英語で話を進められた。わずか三年間足らずの日本滞在にしては、日本語が非常に達者で、発音も正確なことにびっくりした。白ワインを二杯も乾杯して、御手製のケーキをすすめられた。壁に壮年時代の教授の写真が掛けてあったが、眼光けいけいにして精悍そのものといった偉丈夫の面影が偲ばれた。部屋の隔にはキリストの祭壇が設けられてあった。当時すでに89才の高齢と伺ったが、補聴器は手から放されなかったが、会話のなかにうかがわれる語学力、記憶力、奥様を亡くされてからの長い独身生活を守り抜いてきた

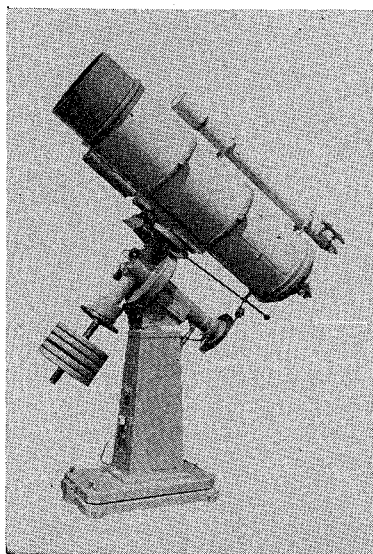
* 緯度観測所

生活姿勢に頭の下がる想いがした。日本滞在のあと、ポーランドでワルソー、クラコフ各大学において位置天文学の講義をもたれ、天文教育に余生を捧げられたそうである。

ポーランド天文学界の最長老でもあられた。

私がお別れを告げて部屋を出ようとしたら、私の肩を叩いて、「どうぞ、お忘れ物のないように」と日本語で言われたことがいまでもあざやかに印象に残っている。亀井半之助という日本風の姓名をもっておられた。帰国したのちに、クリスマスカードに本居宣長の「敷島の心和心を人間はば朝日に匂う山桜花」という短歌が添えてあったこともあり、また英国のある通俗天文同人誌に「土偶と日本の最初の天皇」という題の論文を寄稿され、その別副を送ってこられた。内容をよく読んで見ると、日本古代の土偶のなかには地球大気の影響を防ぐための宇宙服を着たように見えるものがあることを指摘したものであった。

コペルニクス生誕500年の記念すべき年にポーランドの親日天文学者カミエンスキーいや亀井半之助先生の御訃報に接し、追慕の念に堪えない。



天体望遠鏡
ドーム、製作

西村製の天体望遠鏡

40 cm 反射望遠鏡の納入先

- | | |
|--------|---------------------|
| No. 1 | 富山市立天文台 |
| No. 2 | 仙台市立天文台 |
| No. 3 | 東 京 大 学 |
| No. 4 | ハーバート大学 (USA) |
| No. 5 | ハーバート大学 (USA) |
| No. 6 | 台北天文台 (TAIWAN) |
| No. 7 | 北イリノイズ大学 (USA) |
| No. 8 | サン・チェゴ大学 (USA) |
| No. 9 | 聖アンドリウス大学 (ENGLAND) |
| No. 10 | 新潟大学高田分校 |
| No. 11 | ソウル大学 (KOREA) |
| No. 12 | 愛知教育大学(刈谷) |

606 京都市左京区吉田二本松町 27

株式会社 西村製作所

TEL. (075) 771-1570
691-9580